

第20回

らくぶん 楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!



- ◎主催 …… NPO特定非営利活動法人
博多の風
- ◎協力 …… 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、日本電気(株)
- ◎協賛 …… 九州電力(株)、西日本鉄道(株)、(一財)福岡県交通安全協会 〔順不同〕
- ◎後援 …… 福岡市、福岡市教育委員会、(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、
(株)九電工、(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行 〔順不同〕

第52号
令和3年12月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<http://hakatanokaze.jp>

令和元年

- 5月 第40回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:戸谷 弘一(福岡県警 博多警察署長)
- 6月 第18回 追山コース探訪 開催
第19回 楽文コンテスト 開催

- 11月 第19回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和2年

新型コロナウイルス感染症拡大の為、各行事の開催見送り

令和3年

- 6月 第20回 楽文コンテスト 開催

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16-302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanokaze.jp
URL <http://hakatanokaze.jp>

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催
- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

題字:新井光守



発表！ 第20回楽文コンテスト 入賞者

博多祇園山笠振興会賞			毎日新聞社賞		
・「ぼくの大すきなこと」	板付小学校2年	野見山 貴行	・「おうちで夏まつり」	名島小学校2年	佐々木 優衣
・「大好きな山笠を楽しむ」	箱崎小学校3年	渡邊 咲空	・「ぼくの夏まつり	西新小学校3年	寺崎 宗茂
・「また会いたいな」	名島小学校4年	廣澤 美琴	・「ぎんなん」	東吉塚小学校6年	安武 右陽
・「私の大好きなこと」	志賀中学校1年	山下 雛	・「絵を描くということ」	香椎第2中学校2年	山田 一花
・「七人を追いかけて」	春吉中学校2年	高橋 歩美	・「私の大好きな時間」	春吉中学校2年	丸山 結衣

RKB毎日放送賞			NEC賞		
・「わたしが大ききはな」	舞鶴小学校1年	永松 美空	・「パトカー」	下山門小学校3年	梅木 奏思
・「きみ」	赤坂小学校4年	有徳 音映	・「私の宝物、本」	堤小学校5年	成吉 優稀
・「大好きな空手」	東光小学校6年	川越 瑛斗	・「君が大好きなこと」	梅林中学校1年	馬渡 彩花
・「私が大好きなこと」	春吉中学校2年	永岡 佳穂	・「夢中になっている剣道」	香椎第1中学校1年	金森 大輝
			・「僕の大好きな愛犬」	片江中学校2年	橋口 瑠偉人

NPO博多の風賞			
・「おかあさんへ」	名島小学校1年	倉住 知紗	
・「わたしの小説」	原小学校4年	有野 綾夏	
・「ぼくが大好きな野球」	東光小学校6年	村川 慶悟	
・「伝えたい！ごりょんさんの力」	博多女子中学1年	渡邊 佳音	
・「私の妹」	香椎第1中学校2年	山内 心結	

博多祇園山笠振興会賞

ぼくの大すきなこと

●板付小学校2年

野見山 貴行

ぼくは、しょうぎが大好きです。

まい日しょうぎ教室に行きたいぐらいすきです。

しょうぎに行くためなら、しゅくだいをすぐにおわらせられます。

けしゴムをもつと、しょうぎのこまをさすように、パチンと音をたてておいてしまいます。しょうぎ大会でもらったしょうぎのこまの形のけし

ゴムは、ぼくのお気に入りです。しょうぎのこまのかん字

は、ならっていないものもぜんぶ読めるし、書くこともできます。

ねむると、しょうぎのゆめを見ます。

しょうぎのことを考えると、わくわくしてしあわせな気持ちになります。

しょうぎのよていがなくなると、ぜつぼうの気持ちになります。

しょうぎの先生の子どもになりたいくらいです。

おなががすいていても、しょうぎをするとわすれてしまいます。

しょうぎをしていると、三時間が三分間に思えます。

あさからよるまで十時間いじよう、しょうぎをさしつづ

けられるし、一日しょうぎをしてかえってきても、またすぐ

にしょうぎがしたくなります。まけてもまけても、あきらめません。

ぼくは、しょうぎがとても大好きです。

大好きな山笠を楽しむ

●箱崎小学校3年

渡邊 咲空

わたしは、博多祇園山笠が大好きです。でも、山笠には一度も出た事がありません。

理由は、わたしには生まれつき心ぞうびようがあつて、

ほかの人と同じように走る事ができないからです。つめたい

水がかかる事もだめなので、お姉ちゃんや弟のように、朝

山でお父さんのひざにすわって台上がりをした事もありま

せん。だけど、わたしは山笠に出たいと思った事はありません。

なぜなら、わたしは山笠を見る事が大好きだからです。

お父さんは東流から出てい

て、町内は東町筋のすぐ近くです。わたしはいつもあの細

い東町筋で、山が通るのを見

ます。道いっぱい男の人たち

が広がるので、わたしはじやまにならないように気をつ

けています。お気に入りの場所

にはねとばされる心配がありません。山笠に出ないわたしは、ここで七流を全ぶ見る事ができます。あつという間に通りすぎる流、山を引きずってガガガッと音を立てる流、どの流よりも大きな声で「オイサツ。オイサツ。」という流。見ているだけでわくわくします。わたしは大きな道で見るよりも、山がすぐ目の前を通る東町筋で見る方が大好きです。

今年は二年ぶりにかざり山が帰ってきました。お父さんが夜けいの日に、東流のかざり山を見に行きました。

「わあ、大きい。」

弟と一緒に、頭の後ろがせ中にくつつくくらいぐうつと見上げて、かざり山のてっぺんを見ました。表は花さかじいさん、見送りは一すんぼうしがかざられています。花さかじいさんはとてやさしい顔だけど、一すんぼうしの横にいるおには、とてもこわい顔でわたしの方をぎろつとにらんでいました。

「花さかじいさんって、どん

な話だっけ。」

とお母さんが言いました。そこにいただれもはつきりと思

い出せなかったので、わたしは家に帰るとすぐ花さかじいさんの絵本を引っぱり出しました。花さかじいさんはとても心のやさしい人でした。心と同じやさしい顔の人形を作った人形しさんはすごいな

と思います。たくさんのきれいなかざりがつめこまれたかざり山はどうどうとして見えました。

かざり山の前で、何人ものお父さんと同じ町内の大人と会いました。みんなやさしく

「大きくなったね。何年生になったと。」

と声をかけてくれました。二年ぶりでも変わらないやさしさに、心があたたくなりました。一しゅんで、じとーつとあせが出るあつさ、ごりょんさんのおいしい料理のにおい、きおい水でぬれた男の人たちの足音を思い出しました。動く山を早く見たいな。がんばって走るお父さんと弟も見たいな。町内の人たちに

また会いたいな

●名島小学校4年

廣澤 美琴

「お手でつないで野道を行けばー」

この歌を聞くと、去年亡くなった曾祖母の事を思い出します。

私は、曾祖母とすごす時間が大好きです。しかし、去年の五月、のうこうそくでたおれ入院し、九月に天国へ旅立ちました。曾祖母とは十年の間、一しよにすごし、色々な

思い出があります。としと共に、目や耳も少しずつ悪くなりましたがにこにこしながら一緒に童よう、わらべ歌を歌ったり、『くつが鳴る』の歌を曾祖母が歌って私はつくえの上で、考えたおどりを

して、上手にできなくても、はく手をしてくれました。シルバーカーのいすにのせてもらい、庭をさん歩をしていました。ピアノの練習で音は

ずしても、

「大丈夫、がんばって。」

といつもはげましてくれました。そのおかげで自信がつき、たくさんコンクールに出ることができ、全国大会にも出る

ことができました。曾祖母は、いつもどんなときも、感じや

の気持ちを忘れないことを教えてくれました。

今年は、コロナウイルスのえいきようもあり、一周忌の法要は、少人数で行い

ました。神主さんの祝詞の中、「みーちゃん」と、よばれた気がしました。お参りの時、さみしくなり、少し涙がこぼれおち

私の大好きなこと

●志賀中学校1年

山下 雛

お盆当日の夜、私は曾祖母のゆめを見ました。
大ばあちゃんは、私を見て「つこりと、ほほえんでいました。」
「もう少し長生きしたかったね。」
私は、その言葉を聞いて、医師になりたい思いが、さらに強くなりました。叔父のようなりっぱな内科医を目指し、日々の努力をしたいと思います。つくえの上に有る大ばあちゃんとの、思い出の写真をしながら勉強にはげみたいと思います。
「また来年、お盆で壱岐で待つてるね。」
私はそうつぶやきました。
「天国から見守っててください。大ばあちゃんありがとう。」

私の大好きなことは、人が描いた絵を見ることです。なぜ絵を見ることが好きになったかというと、もともと小さいころから、よく叔母さんと一緒に絵を描いていて教わったりすることがありました。そんなときあるアーティストのミュージックビデオの絵をとでもかっこいいと思い、そのイラストレーターや他の人の絵を調べたり、絵を見るのが好きになりました。それから、街のポスターやテレビ、チラシの絵を意識して見るようになりました。意識すると、身のまわりにたくさん絵があふれていることに気がつきました。絵を見ることのどのようなところが好きかというと、描く人によって色や形、絵の中の世界も全然違うところ です。現実世界ではありえないことも絵の中ではありえたり、空想の世界がいくらかも広がっています。他にも同

や、友達に

「女テニ仲良しやね。」

と、言ってもらえるのが心から嬉しかった。

ニスの難しさ仲間と喜び合う楽しさを知った。テニスと共に私の中で輝いていたものがもう一つある。七人の先輩だ。汗が止まらない真夏の暑い日も、手がかじかんだ雪が降った日も声を出して笑顔で私達を引っ張ってくれていた。特に同じ前衛の先輩三人との毎日の練習は、勉強になるプレーばかりできつい練習も一球一球を大切にしようと思えた。

入部してから一年が経った。コロナの影響で、昨年よりも部活動の制限が大きいい中、体験入部が始まった。来てくれた子にはテニスの魅力を精一杯伝えた。結果、十八人も入部してくれ、計三一人の新チームが誕生した。一年生と仲が深まる一方、三年生との距離も以前より近くなった。コートでは、沢山の楽しい話をして、一緒にボールを探したり、休憩時間には水を浴びに行ったりもした。校舎内では、昼休みに渡り廊下で青空を見ながら笑いあう毎日が続いた。通り過ぎる先生方

じ物やキャラクターも描く人によって洋服や雰囲気が変わるところです。有名なアニメのキャラクターなどはたくさんの方が同じ人物を描いてい

ますが一人一人の絵が全然違うので別人に見えたりもします。そして、自分も絵を描くのが好きなので好きなイラストレーターの絵やかっこいい、かわいい、素敵と思った服や小道具、ポーズなどをまねして自分の絵が少しずつ上達していくのも楽しいです。イラストレーターのすごいところはキャラクターやその性格に合わせた服や髪型を考えたりするところだと思えます。たくさんさんの絵を描いていると似たようなものが増えたりしそうですが他のものと同じようなものにせず、素敵な絵を描いているのがすごいと思いました。このようなことも多くの絵を見ることで気づくことができました。私はまだ自分が描きたいと思う絵を描けていません。だから、人の描いた絵を見て絵を練習して自分の描きたい絵が描ける

毎日新聞社賞

●名島小学校2年

佐々木 優衣

おまつりが中しになったのと、雨がふってそとであそべないので、おうちで大きな夏まつりをするのにしました。

おかあさんといっしょにどんなお店を出すか考えました。チョコバナナやさん、ヨーヨーすくいやさん、ジュースやさん、からあげとポテトやさん、おみくじやさん。

まず、パリのパリのチョコバナナをつくるために、40のおゆでチョコレートをとかし、バナナにぼうをさして、チョコバナナをつくりました。たべてみるとチョコがドロドロでした。今では、60のおゆで、チョコをとかしてつくとパリパリのチョコバナナになりました。つぎにヨーヨーのじゅんぴ

七人を追いかけて

●春吉中学校2年

高橋 歩美

「フアイトーイートー。」
ボールを打つ音と重なりながらテニスコートに響く応援を表わす言葉。大きい声で言うほどやる気が出る魔法の言葉でもある。私はこの一年間で、部活を本気でやる楽しさを見つけることができた。

昨年の六月、女子ソフトテニス部の体験入部に行った。初めて握ったラケットは少し重く、慣れなかったが、体験に行くとびにボールを遠くに打てるようになるのがとても嬉しかった。入部してまもなく、三年生が引退した。一年生六人、二年生七人の十三人での活動が始まった。上手く打てない時に、コーチや顧問の先生にアドバイスを頂き改善する事ができた時は、達成感で溢れた。私は、ダブルスで行う中で、テニスコート前方に位置し攻撃守備を行う前衛となった。ペアの子と沢山の試合を経験していく中でテ

ほとんど出られなかったけど、たのしい夏休みになりました。

からあげとポテトとジュースは、おかあさんがじゅんぴしました。

おみくじやさんのじゅんぴです。夏休みにUVレジンキーホルダーとプラバンをたくさんつくったのでけいひんにすることにしました。はこに数字を書いたかみを入れてけいひんにも数字を書いたかみをはりました。

さいごは、夏まつりのかざりつけです。がように、「なつまつり」と書いて入口にはりました。その下にキラキラテープをはりました。へやの中にいるんなお店をつくりました。

ゆかたをきて、おとうといっしょにお店をまわって、ベランダでジュースをのみながら、からあげ、ポテト、チョコバナナをたべました。おみくじやヨーヨーすくいもとてましたのしかったです。そとに

ぼくの夏まつり

●西新小学校3年

寺崎 宗茂

ぼくの大すきは、夏休みに近所のみんなとする『ご近所ちっちゃな夏まつり』です。去年近所のお友だちと考えてはじめました。

この夏まつり、どうしてもじめたかという去年校区の夏まつりが中止になってとてもがっかりしたのでみんなでも楽しい事をしようと考えました。ぼくのおうちの前の道にすんでる家の人がかしました。それぞれのうちのちゅう車場やベランダでお店を開きました。

ぼくの家は三つの食べ物コーナーとゲームコーナーをしました。『かき氷』は五つの味を用意してみんなが食べてくださいました。『白玉サイダー』はサイダーに白玉だんごを入れて作ります。これは、大人気で全ぶ売れました。『たこせん』は子どもに人気でした。『しやてき』コーナーはお兄ちゃんとふた子の弟と作りました。ブロックで作ったまとおもちやのてっぽうでうって、たおれたら商品のおかしをえらんでもらいました。ご近所のみなさんは、おにぎり、ジュース、やきそば、フランクフルト、ヨーヨーすくいコーナーをしてくださいました。みんなに三百円で『なんでもチケット』を買ってもらい、なん回でも全ぶのお店を回れるようにしました。たくさん食べたりのんだり遊んだ後は、みんなで花火をして記念んにしゃしんをとりました。

らった事がうれしかったです。いつもは会えない一人ぐらしのおばあさんとおしゃべりしたり、友達といつもとちがう事ができて楽しかったです。去年の夏休みでこの『ご近所ちっちゃな夏まつり』が一番の思い出です。

今年も夏休みのさい後にやろうと決まっています。ぼくの家族は今年、たこやきと白玉サイダーとチキンナゲット、ストラックアウトをしようと話し合いました。ぼくはたこやきプレートでたこやきを上手にひつくりかえしてやっかかりです。お友だちはバスケツトゲームをするそうです。近所の人みんながさんかしてくるかなあ、食べたり遊んだり、さい後の花火はとっても楽しみで、まちどおしいです。

これから、コロナがおさまって校区の夏まつりがふっ活しても来年もさ来年もまたやりたい。お母さんは、

ぼくは、自分で作ったかき氷を食べてもらったり、ゲームをじゅんびして遊んでも

からとても大切なんだよ。」と言っていました。ぼくは、地いきのやさしさや友じょうがなくなったらだめだと思えます。この夏休みの『ご近所ちっちゃな夏まつり』と近所のおばあちゃんもおじちゃんもおばちゃんもおねえちゃんも友達もちっちゃい子も犬もねこもぼくは大すきです。ずっとずっとつづけていきたいです。

ぎんなん
●東吉塚小学校6年

ヤスタケ **安武** ユウヒ **右陽**

「ぎんなん」は食べ物のぎんなんではありません、このタイトルの「ぎんなん」とは、僕が入っているラグビーチームの名前です。

お父さんからの誘いで、4年生の冬にラグビーの体験に行きました。ラグビーというスポーツは知っていたけどルールは全く分からずに行ってみただけどチームやコーチの人は優しく声を掛けてくれたのが嬉しかったから入ることにしました。

ラグビーの好きな所は、試合中にトライをした時やいいプレーが出た時に「ナイス」やハイタッチをして、逆にボールを落してミスをして、仲間が「ドンマイ」と言っ

てせめずに支えてくれるからです。これからの目標は今のぎんなんリトルラガーズのみんなで小学生の最後の大会で日本

一になり中学校でもラグビーの練習をたくさんして、高校の花園でも日本一を取って、またみんなでハイタッチをしたいです。

絵を描くということ

●香椎第2中学校2年

ヤスタ **山田** イチカ **一花**

私が大好きなこと、それは絵を描くことです。昔からほぼ毎日つづけてきたそれは私のかげがえのない存在になっていました。

絵を描き初めたのは4歳頃。当時ドハマリしていたアンパンマンの絵を描いていたそうです。5歳頃になるとお気に入りのくまのぬいぐるみ達とその擬人化の絵を描き、7歳頃では、妖怪ウォッチの絵を描いていました。好きなアニメ、キャラクターは変わっていても、好きなこと

齢にも数え切れないほどいます。上手くいかなくて落ち込む時もあります。それでも、私は絵を描き続けます。上手じゃなくてもいい。私は絵を描きたいから。絵を描くことが大好きだから。

さあ、今日は何の絵を描こう。

です。コピックとはプロの漫画家さんも使っているアルコールマーカーです。値段が高くて買うのをずっと迷っていました。誕生日に買ってもらい、使い始めました。最初はムラがたくさんできてしまっていたけれど、使っていくうちにムラが0になりました。絵について詳しい友達にコツをきいたりして、色ぬりを極めていきました。やっぱり色がつくと絵が華やかになります。すごく楽しい、もつと描きたい。という想いがより強くなりました。

二つ目は、デジタルイラストです。スマホやアイパッドの無料アプリ等で描くイラストです。家のアイパッドを使っ

はずっと絵を描くことでした。いつも何か描いていた気がします。あきつぽく、努力が続かなくて、運動が苦手な私がこんなにずっと好きで続いているのは絵を描くことだけ。これからもそうかもしれない。中学生になり、私の画力はぐんと上がることとなりました。美術部に入ったからです。うちの学校の美術部は私語禁止で活動時間多めのハードな部です。行くのが苦な時もたくさんあったけど、絵が上手くなりたという一心で必死にがんばりました。その努力の末につかんだ画力の上昇は本当にうれしかったです。絵を描くことのためならこま

でできるんだと分かったときもまた、うれしかったです。これからも部活を一所懸命にがんばっていきたいです。目標は「自分が心の底から満足できる絵を描く」です。

中学生になって、私は他にも絵関連で始めたことが2つあります。

一つ目は、コピックの使用

私の大好きな時間

●春吉中学校2年

マヤマ **丸山** ユイ **結衣**

私には、とても幸せだと感じる時間があります。それは、友達と話しをしている時間です。どんなにしょうもないこ

とも友達と話していると楽しいし、何かあった時は、か

ならず相談にのってくれるとてもすばらしい友達です。私はそう感じるようになったのはきつかけがあります。私が小学一年生のとき、他の地域から引っこしてきたせいで、なかなか友達が出来ませんでした。基本的に一人で、ペアになって何かをする時も、必要なこと以外は話せず、とても悲しい日々をおくりました。

小学二年生になり、初めて友達が出来ました。その子も二年生になり、引っこしてきた子で、話の合う部分がたくさんあり、一緒にいて、とても楽しいと感じました。このころから、友達と一緒にいることがとても幸せでした。

友達のつくり方をおぼえて、小学校高学年ごろには、たくさん友達が出来ました。中学校に入っても友達を作ることができました。でも考えてみると、友情というものとはそう簡単に深まるものではないなと思います。

どうやって友情を深めてきたかを思い出すと、すべてに

「支え合い」という言葉が出てきます。互いに支え合うことで友情は芽生えると思います。時にはけんかもあります。でもけんかをするこ

で、新たな友情が芽生え、仲良くなれる。そんな関係が、私は大好きです。私は将来、看護師になりたいです。理由は何か病気を

もっている人でも、互いに「支え合い」、絆を深め、この看護師なら大丈夫だという安心感をあたえられるような人になりたいからです。絆が深まることで、勇気もあたえることが出来ると思います。私は、これから関わっていく人、みんなに勇気をあたえることが出来るような人間になりたいです。

とは私にとって、かけがえない存在だと思っています。友達がいるから毎日が楽しいし、相談したいことがある時は、親よりも先に友達に言えます。そんな大切な友達との時間を、たくさんすごせるように頑張ろうと思いました。

RKB 毎日放送賞

わたしが大好きなのはな

●舞鶴小学校1年

ナガツ 永松 ミソラ 美空

わたしは、はなが大きいです。どうしてかという、どのきせつでも、わたしのそばにはなは、いるからです。はるは、サクラ。にしこうえんのサクラが、いちばん大きいです。ほかのこうえんよりも、サクラのきがおおく、ふわっとくものように、サクラがうかんでるようにみえるからです。なつは、アサガオ。はじめて、たねからそだてました。まいにちおおきなあれ。といいながら、みずをあげました。きもちをこめると、どんなにおおくなりました。はながさいたときは、うれしいきもちになり、ピンクのはなに、こころのなかで、はじめましてとあいさつをしました。三十このはながさいて、

きみ

●赤坂小学校4年

アリトク 有徳 音映

雨の日はかみがクルクルになるきみ
わらうと目が細くなるきみ
ひとくちがとっても小さいきみ
ほつぺがプニプニしたおもちみ
ちみたなきみ
おひさまみたなきみ
うさぎみたいにあまえんぼうなきみ
「よいいどん!。」と言う前に走りだすきみ
道ばたの花だんで必ず立ち止まるきみ
一番上のボタンを一生懸命にとめるきみ
大好きなチョコレートを少し分けてくれるきみ
せまいところを横歩きでにん者になりきるきみ
オレンジジュース色の空が好きなきみ
そつと手をつないで「ジャンプしよう。」と言うきみ
ぎゅつとだきしめると、あまいにおいがするきみ

私が悲しいときにおもしろい動きをしてわらわさせるきみ
しょっちゅうけんかもするけど大好きな妹

大好きな空手

●東光小学校6年

カゴエ 川越 エイト 瑛斗

僕は、小さなころから、「空手」を習っています。六年生になるまでに、大会などに何度も挑戦してきました。その中で、黒帯をとれたり、賞をとれたりしました。しかし、長年習っていたとしても、大会の時には緊張します。その緊張も今では、楽しさになります。楽しさへと変わった理由は、主に三つあります。一つ目は、空手への想いです。黒帯になってから、プレッシャーができ、前よりも、練習の時に熱心になりました。また、

「練習の時、百二十パーセント。本番の時、百パーセント。」
という先生の言葉を思い出しながら練習をしています。大会の時に、緊張している時にも思い出して、達成したらうれしくなります。

二つ目は、自分のイメージ通りに技がキメられるようになってきたのを実感できるようになってきたからです。最近は、大技だけでなく、基本技を練習しています。その成果で一つ一つの技がきまります。すると、緊張してる時や苦手な型が出てきた時でも、一つ一つきまるので、上手くできてる感じがして、楽しくなります。

三つ目は、目標ができたことです。東京オリンピックの喜友名選手を見て、「カッコいい!」と思いました。僕も、流派はちがいますが、喜友名選手と同じような型をがんばっています。喜友名選手のキレがいい所と、迫力があるところが、とてもカッコいいです。この2つを少し心がけ

て練習すると、少しプロに近づけたような気がして、うれしかったです。もつと練習をして、キレと迫力をつけようと思いました。

他に、テレビで、空手の有段者であるおじいさんが、おそつてきた熊をげきたいしたというニュースを見たことがあります。僕も、このニュースを見ておじいちゃんになつても熊をたおせるくらい、練習を続けていきたいです。

また、空手には、ごしん以外の目的もあります。僕が行っている道場の道場訓の中に、
「人格完成につとむること」
と、

「礼儀を重んずること」という、訓があります。このように、空手には、精神をきたえる目的もあります。

空手では、いろいろな技術や精神について学べます。それから、オリンピックもかいさいされて、夢ができました。僕は、空手が大好きです。ニュースのおじいさんのように、僕がおじいちゃんになっ

ても、強いそんざいになりたいです。そして、これからも喜友名選手みたいな人になれるように練習をがんばっていききたいです。

私が大好きなこと

●春吉中学校2年

ナガオカ
永岡 佳穂

私が大好きなことは「読書」です。読書は昔から好きで、小さい頃から絵本を読んでいた。私がまだ幼稚園生の頃、幼稚園の劇の題材に当時私が好きだった絵本を使うことになりました。それを聞くといつも消極的だった私が、たくさん意見を出し、みんなをまとめるリーダーになりました。好きなことになると夢中になる今の性格は当時からあったのかもしれない。

私が読書を好きな理由は三つあります。

一つ目は、文章を映像化するのが楽しいからです。文章を読みすすめていくうちに、言葉一つひとつから背景や主人公の顔、服装なども頭の中で想像して映像化することができます。映画のように映像が頭の中で流れ、読むのが楽しくなってきました。

二つ目は、いろんなジャンルがあることです。本には、

黒の二色にしたばかりで、しょうわ30年には、全国でとう一されました。パトカーは、白と黒がはでいいと思いました。

ぼくがパトカーがすきになった理由は、もともと車がすきでその中でもかっこいいと思ったからです。ぼくは、パトカーもすきだけど、中ののっているけいさつかんの見た目がかっこよくてすきです。パトカーがないと平わがまもれないからパトカーはすごいもの物だと思えます。パトカーにっている白バイは、なぜ白色なのは、外国から習ったものでめだった色であるからです。ぼくは白バイもすきだけど、パトカーのほうが大きくてみ力があるからすきです。パトカーを見る回数がぼくは少ないので、見た時はけっこうこうふんします。パトカーは、白と黒の二色だけど、もう一色ふやして三色にしたらいいいと思います。パトカーは、車の中では人気なほうだと思います。いつか自分がけいさつかんに

ミステリーや詩集、恋愛小説、ためになる知識がいっぱい詰まった本や、釣りやキャンプなどの興味のあることや趣味について書かれた本など数えきれないほどの多種多様なジャンルの本があります。なので本を読むことに飽きることはなく、どんどん読みたい本を見つけていきます。私が今興味を持つているのは詩集です。国語の授業で詩を教わって以来、詩集を読んで自分の好きな詩を手帳にメモするようにしました。

三つ目は、いろんな考えに触れられるからです。人の考えはみな同じではありません。それぞれ違った考えを持つており、似た考えを持つ人がいても、全ての考えが同じになることはないと思います。このことを分かりやすく表しているのが本です。本はどれも違ったことを書いており、似たようなことを書いていても全てが同じ、ということはありません。著者の数だけ本があり、本の数だけそれぞれ違った考え方があ

なってパトカーの中を見てみたいです。出来れば自分がパトカーになりたいです。きゆうきゆう車やしょうぼう車もかっこいいけれど、ぼくが一番のおしはパトカーです。

私の宝物、本

●堤小学校5年

ナリシ
成吉 優稀

私は、本が大好きです。図書館での年間貸出数は、学年でもベスト三には入ります。委員会活動では、図書委員会に所属しています。家や学校でも、すきま時間に本を読むほど、私は、本が大好きです。本には、良い点が三つあります。一つ目は、私を笑顔にしてくれるという点です。例

です。自分とは違った考え方を受け止められるかどうかで人間関係が上手くいくかどうかが決まります。人の考えを否定し、自分の考えが正しいと人に押し付ける人はもっと他の人の考えを知り、理解することが必要でしょう。

私が読書するのは趣味で自分の好きな本を見ることが、学習して学びの財産にすることの二通りあります。この二つをしつかり切り換えることで読書は楽しいと感じられます。本を読むのが苦手な人は「学ぶために本を読む」ではなく、自分の好きな事について、「楽しむために読む」という考えを持つてみたら本を読むことが好きになるかもしれません。本は私にとつて宝箱です。宝箱の中身は開けてみないと分かりません。宝石のように美しい言葉に出会うこともあります。一回読んだだけでは理解できない複雑なストーリーもありま

例えば、私が兄とけんかをし、おこつて部屋に行つて本を読んだ時のことです。私と同じパティシエを目指す女の子の物語を手に取りました。女の子の仲間が自分達は、「超天才小学パティシエだ」と言つたところで思わずふきだし、私は笑顔になりました。私の機嫌も直り仲直りするきっかけとなったのです。二つ目は、読解力がつき、知らない漢字と言葉を覚えることができた点です。このおかげで、国語のテストにかぎらず、テストで百点をとることができました。そして、本を読んでいる自分よりさらに良い自分になっているのだと実感しました。三つ目は、想像力がつくという点です。まんがでは、身につかない想像力を小説では、会得することができます。例えば、本に大きなおにぎりが出てきましたとします。まんがでは、すぐに大きさが分か

ページ目を開いてみてはいかがですか。

このように、本には、笑顔にする、知らないを知るにできる、想像力がつくなどのたくさん良い点があります。この宝物の本をたくさん読み始めたきっかけがあります。一つは、兄と父がたくさん本を読んでいたので、負けず嫌いな私は、父と兄よりたくさん本を読もうとしたからです。もう一つは、母と兄が読んでいた約二センチメートルはばの小説を私は、「文字がたくさんある。」と言いました。すると兄と母が「優稀は気が短いからこんなに長いのは読めないだろ。」と、からかったので、負けず嫌いな私は、「読めるよ。こんなの。」と、言つて読むことになりました。読み終わるといつの間にか本はなんておもしろいんだろう。という気持ちでいっぱいでした。それから、私はひと月に五十冊以上読むこともあり、四年生の学年貸出数は四百冊で一位でした。学校全体では、二位でした。このことから、改めて私は負けず

NEO賞

パトカー

●下山門小学校3年

ウメキ
梅木 奏思

ぼくは、パトカーが大好きです。パトカーのサイレンの光つていところがかっこいいと思います。だけど、きゆうになるので少しこわいです。けいさつかんのけいれいがかっこいいからぼくもけいれいをけいさつかんにやたらかえしてくれるのでうれい

嫌いなことも、本が大好きになったきっかけは、家族のおかげだということも分かりました。

これから、図書委員として、四年生一位としてはじないよ

君が大好きなこと

●梅林中学校1年

マヲタリ
馬渡
アヤカ
彩花

私が大好きなことは絵を描くことです。理由は、自由に好きなようにペンを動かすことが楽しいと感じるからです。私は小さい頃から絵を描くことが好きでした。私が絵を好きな理由は具体的に話すとはくさんあります。

まずは、絵を描いている間の気分です。私は気分によってペンのタッチや早さ、描いたものの雰囲気が変わります。だから、わたしが絵を描くタイミングは、自分が描きたいと思った時です。ある日、私は宿題をやっていたなかったことで、親に怒られ気分がむしゃくしゃして何もしたくない気分でした。そんな時でもふと絵が描きたくなりペンを握りましたが、やはり頭が回しません。それでも思いっくままに描いていると、いつもよりなんだか落ちついた雰囲気

ていろいろと変わるので、自分が絵を描きたくないときは描かない、いやいややつても気に入る絵は描けません。絵には私が表れてしまうのです。そして次の理由は、絵から感じるものことです。まず画材は鉛筆、マジックペン、水彩絵の具、色鉛筆と、とても豊富です。画材は何を使っ

明るい色は元気、青系は冷たいと、だいたいの人がそんなイメージを持っていると思います。空は青系のイメージがあるとありますが、絵だったら誰かがもし空を黄色でぬっていたら初めはイメージと違って違和感を覚えるかもしれません。私だったら、そのままなぜ黄色なのかな、こんな世界の絵なのかな、と思ったりするし、それに空は青というイメージに反していておもしろいと私は感じます。

性格や声、雰囲気など、人にも色があります。絵はその人自身のようです。この世界は限りなく色が溢れているようです。そんな絵が私は大好きです。

夢中になっている剣道

●香椎第1中学校1年

カナモリ
金森
タイキ
大輝

僕が夢中になっていることは、剣道です。

僕は、幼いころ病気がちでたびたび入院したことがあり、丈夫な体に育ってほしいという母の思いや、剣道をやっていた父のすすめもあって、剣道を通じて心身を鍛えようと思ったことが剣道を始めたきっかけでした。

剣道の道場に通うようになり、最初の頃はけいこがきつくて涙がでたり、くじけそうになることもありましたが、けいこを重ねていくうちに「苦しいのは自分だけではない」と一緒にけいこしている

わたしの小説

●原小学校4年

アリノ
有野
アヤカ
綾夏

わたしは、お話を書くのが好き。自由に物語の主人公を考えられるからだ。それと物語の中では、何をしてもいい。ネコを飼ったり、高級マンションにも住める。たとえば、わたしは犬が飼いたくて、一けん家に住んでみたいからそれを書けばいい。

四年生になると、友達とお話を書いてみた。たんにんの先生からメッセージをもらってうれしかった。そして、その本を引っこす友達にあげた。その子がずっと大切にしてくれないといいな。わたしの自信作、みんなに読んでもらえますように。そのためには、わたしのうでを上げなきゃいけない。しかし、わたしが実力を上げるための方法は二つしかない。一つ目は、本をたくさん読み、言葉を知ること。二つ目は、作文を書いて、文章力を上げること。本を読むことは好きだ。作文を書くこ

僕の大好きな愛犬

●片江中学校2年

ハシグチ
橋口
ルイト
瑠偉人

春、桜の下、野原と一緒に思いつき駆け回る。

夏、川遊びで疲れた後、セミの声の中、ごさの上、昼寝する。

秋、紅い山を遠目に、歩幅合わせてゆつくり歩く。

冬、温かい部屋の中、暴れまわって怒られる。

ずっと同じ時を過ごしたい。あくる年も、あくる年も。君が年をとって歩けなくなっても大丈夫。

腕に抱いて綺麗な景色の所へ連れていく。君が耳が聞こえなくなっても大丈夫。優しく触れて安心させてあげ

君の目が悪くなっても大丈夫。変わらず、傍にいるから。君が最期、目を閉じる瞬間まで。

ずっと同じ時を過ごしたい。だから明日も、一緒に遊ぼう。

NPO博多の風賞

おかあさんへ

●名島小学校1年

クラスミ
倉住
チサ
知紗

うんでくれてありがとうがっこうにいけるしおにいちやんとあそべるよ

いつもごはんをつくってくれてありがとういつもえいようをとってるよ

いつもせんたくをしてくれてありがとういつもふかふかのようふくをきてるよ

まいにちやさしくしてくれてありがとうやさしくしてくれてうれしいよ

いつもおせわしてくれてありがとう

おかあさん だいすきだよ

仲間の大切さに気づきました。

また、先生から一日一回は家の手伝いをするように指導され、日常生活でも周囲に目を配るようになりました。

さらに、厳しいなかにもあたたかく声をかけてくださる先生方の励ましや、日々のけいこから休日の試合まで付き添ってくれる両親の応援など、私を支えてくれるたくさんの方々の存在に気づくことができました。

それらは剣道のけいこを通じて得た効果であり、体力面だけではなく、日々の生活や学校での勉強など様々なところでだんだんと自分自身に自信を持つて行動できるようになりました。

中学校でも剣道が続けようと思い、部活動に入りました。部活練習は、今までよりきついけいこばかりでしたが、試合のメンバーに選ばれ、けいこを頑張ってきてよかったと思いました。

わたしは、お話を書くのが好き。自由に物語の主人公を考えられるからだ。それと物語の中では、何をしてもいい。

ネコを飼ったり、高級マンションにも住める。たとえば、わたしは犬が飼いたくて、一けん家に住んでみたいからそれを書けばいい。

四年生になると、友達とお話を書いてみた。たんにんの先生からメッセージをもらってうれしかった。そして、その本を引っこす友達にあげた。その子がずっと大切にしてくれないといいな。わたしの自信作、みんなに読んでもらえますように。そのためには、わたしのうでを上げなきゃいけない。しかし、わたしが実力を上げるための方法は二つしかない。一つ目は、本をたくさん読み、言葉を知ること。二つ目は、作文を書いて、文章力を上げること。本を読むことは好きだ。作文を書くこ

とも好きだ。この二つの好きなことをずっと大切にしていきたい。

十代のスローガンは、「いろんなことにチャレンジすること」だ。わたしが、いろんなことにチャレンジしたきっかけは、予想だけれども、むだなことは一つもないと思う。

しょうらいのゆめは、小説家。これからのたくさんのけいけんは、全て小説の材料になっていくだろう。これからの毎日が楽しみだ。

ぼくが大好きな野球

●東光小学校6年

ムラカワ 村川 慶悟 ケイゴ

ぼくが大好きな事は野球です。ぼくは少年野球チームに入っています。今ぼくは6年生でチームのキャプテンをしています。そしてぼくのポジ

幼い頃から山笠を近くで見ている事が重要だ。山笠が身近な存在ならば、子供達は昇き手に憧れ、自分が山を昇く姿を夢見るだろう。

私は今年、中学生になった。男の子は中学生になると昇き手として参加するが、私は子供でもごりよんさんでもない。どうしよう。ごりよんさん見習いとして参加してもいいだろうか。ごりよんさん達といつまでも関わっていたいし、山笠にも長く関わっていたい。 「東流」を読めなかった同級生のように、山笠を知らない人に山笠の魅力を伝えたい。そしていつか、ごりよんさんがいかに山笠を大切に思い支えているか、多くの人に伝えたい。

今年は二年ぶりに東流の飾り山を見る事ができた。父が夜警の日、町内の人達に何人も会えた。二年ぶりなのに、昨日も会っていたかのように会話が弾む。「ああ、やっぱり居心地がいいな。」町内の人達の優しさに、心が温かくなった。人とのつながりや思いやりを大切にする山笠が、やは

シヨンはピッチャーをしています。

ピッチャーは一言で表すと「つらい」ポジションです。なぜかと言うとぼくが投げる球が良くないと自分達のチームに流れがこないからです。特に強いチームの時はより集中します。だけどフォアボールやデッドボールになる事もあります。その時は、チームのみんなに申し訳ないなと思います。だけど気持ちを切りかえて投げないといけません。それはすごく大変です。

本当は今年県大会に出場する予定でした。県大会は予選を勝ちぬいたチームしか出場できません。ぼく達のチームは十数年ぶりに県大会出場が決まっていました。だけど新型コロナウイルス感せん者が増えてしまい試合の前日に中止が決まってしまいました。しかも、中止の事を聞いたのはみんなで練習をしている時でした。ぼくは、すごくショックでした。今までの練習が全てむだになったような気持ちになりました。でもくやしがつてばかりいても仕方ないので

り私は大好きだ。

私の妹

●香椎第1中学校2年

ヤマウチ 山内 ミユ 心結

皆さんは、障害者を見かけた時にどのようなことを思いますか。あまり関わりたくないと思ったり、少し怖いと思つていませんか。

私の妹は、ダウン症という障害を生まれつき持つています。妹が生まれたときは、障害というものを理解しておらず、よく分かっていませんでした。けれど、妹の障害のこ

気持ち切りかえて次の大会にのぞみたいと思います。

ぼくは、みんなからの投票でキャプテンに選ばれました。選ばれた時は、みんなから「おめでとう」と言われてすごくうれしかったです。でも現実はその甘くないです。なぜかというとぼくは指示するのが苦手でいつもチームメートにおこられます。それにながあっても最初におこられるのはぼくなので精神的にきついです。でもキャプテンに選ばれなかったらこういう経験はできなかったし野球はチームプレーだからみんなでまとまって練習や試合をしないといけないので、キャプテンである自分がチームをまとめていけるように考えて行動していこうと思っています。

ぼくは野球を続けていて楽しい事ばかりではない事はよく分かっています。でも試合に勝った時やチームのみんなとプレーする事はとても楽しいです。これからももっと練習して誰よりもまくなりた

とをしつかりと知ってから障害者への見方が一八〇度変わりました。妹は、様々な障害を持った人が通う特別支援学校にスクールバスを使つて通っています。よく妹と同じ学校の友達と関わる機会があります。みんな優しく、面白

いですが、みんな優しく、面白いです。私は今まで、勝手に障害者のイメージを決めて生きてきたのだと感じました。私の妹は、人の世話をするのが大好きです。好きな故に度が過ぎてしまい、嫌がられることもあります。また、自分の用意が終わっていないのに、まわりの人を手伝つてしまうことが多く、怒られることがあります。しかしそれは、妹にとって最大の愛情表現なのです。空回りすることが多いですが、とても優しい妹なのです。また、妹は上手には話すことができません。妹なりに一生懸命がんばつて伝えようとしてくれますが、分からないときは全く分かりません。

妹は、これからできないことが山のようにたくさん出

伝えたい！ごりよんさんの力

●博多女子中学1年

ワタナベ 渡邊 カノン 佳音

「東流つて、とうりゆうつて読むと？」

同級生に聞かれた。この時は人生初の「開いた口が塞がらない」経験をした。0歳から山笠に行っている私には衝撃的な質問だった。

私は博多祇園山笠が好きだ。勇壮な昇き山や豪華絢爛な飾り山はもちろんだが、山笠を支えるごりよんさん達と関わる事が特に好きだ。昇き手がけがをしないように、山笠に集中できるようにと願いながら、山笠期間中、ごりよんさん達は寸暇を惜しんで働く。私の母もそんなごりよんさんの一人だ。

母は日中は仕事に行き、夕方から私と妹、弟を連れて町内へ行く。町内の路地で遊ぶ子供達を気にしつつ、他のごりよんさん達と料理をし、片付けまでこなす。父を待って帰宅し、子供達をお風呂に入れて寝かしつける。翌朝には、法被もしめこみも地下足袋も

洗濯、アイロンがけをされ、ピシッと揃えてある。

私達の物も含めて、夜中に母がアイロンをかけたしめこみはしわ一つなく、まるで包丁で切った卵焼きの断面のように見事に巻かれている。父のしめこみは巻きやすいと、町内の人達に評判だ。

驚きなのは、十日の流昇きで使った法被一式が、十一日の朝山までには洗濯され、ピシッと揃えてある事だ。母はいつ寝ているのかと不思議で仕方ない。それでも母は、「総代の奥さんはもつと大変と思うよ。」と言う。ごりよんさん達はお互いを思いやり、それぞれができる事をする。幼い子がいるごりよんさんは、料理をする間、町内の子供達の世話を一手に引き受ける。母も、料理をせず子供達という事に心苦しさがあったそうだが、そんな母に先輩ごりよんさん達はいつも「気にせんで。来てくれるだけでいいとよ。」と言っていた。なんと温かい言葉か。子供達に山笠の伝統を受け継いでもらう為には、

てくると思います。そして、一つずつ、一つずつまわりの人の何倍もの時間をかけて、できるようになっていくと思つています。今からたくさん壁にぶつかっていくと思いますが、私が隣でサポートしていきたいと思います。大好きな妹だから。